

## 星陵会館ホール(星陵会館 2階)案内図

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-16-2

電話 03-3581-5650

ホームページ <https://www.seiryokai.org/kaikan/map.html>



### ●交通ご案内

東京メトロ有楽町線、半蔵門線、南北線 永田町駅6番出口より 徒歩3分  
東京メトロ千代田線 国会議事堂前駅5番出口より 徒歩5分  
東京メトロ南北線 溜池山王駅5番出口より 徒歩5分

参加希望の方は、11月29日(金)までに当センターのホームページ (<https://www.rwmc.or.jp/>) からお申し込みいただくか、同封の用紙に必要事項を記入の上ファクシミリにてお送りください (03-5550-9116)。

なお、定員(200名)になりましたら、申し込みを締め切らせていただきますので、ご了解ください。

公益財団法人 原子力環境整備促進・資金管理センター  
(原環センター) 企画部

〒104-0044 東京都中央区明石町6番4号

(ニチレイ明石町ビル12階)

電話 03-6264-2111(代表) FAX 03-5550-9116

ホームページ <https://www.rwmc.or.jp/>

# RWMC

2019年度

原子力環境整備促進・資金管理センター

(原環センター)

## 研究発表会

◆日時：2019年12月6日(金)  
13:45~16:45(13:25開場)

◆会場：星陵会館ホール  
(星陵会館 2階)  
東京都千代田区永田町2-16-2

公益財団法人 原子力環境整備促進・資金管理センター

RADIOACTIVE WASTE MANAGEMENT  
FUNDING AND RESEARCH CENTER (RWMC)

## ご案内

2019年10月

弊センターは、1976年10月の設立以来、関係各位のご指導、ご支援を頂きながら、放射性廃棄物の安全かつ合理的な処理処分の実現に求められる様々な試験、研究、開発、調査等を推進し、その成果の普及に努めてまいりました。

このたび、2019年度原環センター研究発表会として、弊センターがこれまで実施してきた地層処分の可逆性・回収可能性に関する研究開発成果の発表と東京大学名誉教授鈴木篤之氏をお招きした特別講演「放射性廃棄物処分－不確かさへの挑戦」を企画いたしました。

ご多忙中とは存じますが、皆様のご来駕を頂きたくご案内申し上げます。

公益財団法人 原子力環境整備促進・資金管理センター  
理事長 高橋 彰

### 特別講演概要

軽水炉を発明した A. ワインバーグは、原子力安全に係る問い掛け“*How safe is safe enough?*”が、原子炉事故や低放射線リスクとともに、放射性廃棄物処分問題とも無関係でないことを示唆していた。彼はそれを通常の科学の領分を超えた課題として、生涯、自問自答していた。この問い掛けは、科学技術の利用に伴うリスク、とくにそれに付随する不確かさに関連している。放射性廃棄物処分の安全に係る、この不確かさについて、ノーベル賞学者 H. サイモンを嚆矢（こうし）とする「人工物の科学」の助けを借りて考えてみる。サイモンは、AI（人工知能）研究の先駆けであり、昨今の AI 応用の目覚ましい拡大とともに、その思想があらためて注目されている。

本講演が、放射性廃棄物処分の課題を幅広い視点から考える上で少しでも参考になり、同処分分野へ若手人材を誘う緒になれば幸いである。

#### 講師紹介

東京大学名誉教授、工学博士。1971年東京大学大学院博士課程修了、1974年国際応用システム分析研究所研究員、1977年東京大学工学部助教授、1986年同教授。2001年原子力安全委員会委員、2006年同委員長、2010年日本原子力研究開発機構理事長、2012年環太平洋原子力協議会会長。この間、米国科学アカデミー「放射性廃棄物管理」研究評議会評議員、国際原子力機関原子力安全諮問グループ委員等。専門は、核燃料サイクル工学。著書に、「原子力の燃料サイクル」（電力新報社）、「システムの設計・運用・評価」（岩波書店）など。

## プログラム

開 会 (13:45)

1. 挨拶 (13:45~13:50)

理事長 高橋 彰

2. 研究発表

可逆性・回収可能性の維持に伴う技術的対応と性能評価に向けた工学技術の役割 (13:50~15:10)

地層処分工学技術研究開発部長

江 守 稔

休 憩 (15:10~15:30)

3. 特別講演

放射性廃棄物処分－不確かさへの挑戦 (15:30~16:45)

東京大学名誉教授

鈴木 篤 之 氏

閉 会 (16:45)